

# のびのび 田底っ子

第35号

文責：校長 益永 一幸

## 「地域人材・素材」「専門家」を活用した授業 ～開かれた教育課程～

12月5日（木）、地域の飲食店「みちばた」を経営しておられる富田さんが6年生の授業に入って、「みちばた御膳小鉢をつくろう」という6年生の企画を応援していただきました。授業の最後に「大人になっても田底が大好きな人になってほしい。地域貢献をしてほしい。」というメッセージをいただきました。また、6日（金）の6年生の授業参観には、「命の大切さを考える講演会」を、熊本県助産師会の皆様にしていただきました。現場を知っておられる専門家の方の言葉には重みがあり、心と体を大切にしている性教育のあり方を学びました。

このような学校以外の地域の方々や専門家からの学びは、学校の教科学習だけでは学べない「深い学び」が実現できます。学校では、教育課程を学校外に開いて、より深い学びを求めています。保護者からも学校教育に役立つような情報等がありましたら、担任等にお知らせいただくとありがたいです。



「富田」さんに御膳小鉢を説明している様子



講師の話真剣に聞いている6年生

### 12月 校長講話 「命かがやかせよう」

この写真を見てください。これは26年前の校長先生の子どもの写真です。この双子の兄弟は、とても小さい体重で生まれました。兄の「ひろあき」は990グラム、弟の「たけろう」は590グラムの超未熟児で生まれました。校長先生は、はじめこの2人が生まれた時とても心配しました。2人とも生きるか死ぬかの瀬戸際でした。校長先生は、「生きていればいい」と真剣に思いました。兄の「ひろあき」は今は元気に働いています。もう一方の弟の「たけろう」は、どうしても「肺」と「心臓」の成長ができず、常に酸素吸入器を必要とする状態でした。毎日必死に生き続けましたが、どうしても耐え切れず、2歳と11日生きてなくなりました。校長先生や妻と家族はとても悲しみました。でも、葬式が終わって、「たけろう」が今までがんばったことを受け継いでいこう、「たけろう」ががんばった力を2人の子どもに与えようと誓い合いました。

校長先生はこの経験を通して、「せっかくもらった自分の命は大切にしよう」「せっかくもらった命をもっとかがやかせよう」という考えになりました。最愛の息子「たけろう」がそう教えてくれました。みなさん、自分の命、周りの人の命を大切に、その命をもっとかがやくような生き方をしてほしいと思います。